

## 目次

序章..時代は変わる

本書の構成

四

## 第一巻 世の中の変化とは？

(一) 世の中の変化とは

二一

何が良いことで何が正しいことが変わる21 / 進歩なのか変化なのか22 / 大中小の三種類の变化の波24

(二) 戦後の世代交替という十数年周期の変化..各世代の特徴

二六

世代交替26 / 団塊の世代27 / 新人類世代30 / 団塊ジュニア世代33 / カワイイ世代36 / カワイイ世代の次もカワイイ世代41

(三) 戦後の世代交替という十数年周期の変化..時系列

四二

終戦から昭和四〇年頃まで42 / 昭和四〇年頃から五〇年代半ばまで44 / 昭和五〇年代半ばから平成初頭まで45 / 平成一桁半ばから一〇年頃まで46 / 平成一〇年代以降50 / 帰って来た日本人51

(四) 経済・人口成長期という数百年周期で出現する特異点

五四

経済規模と人口はこれまで成長と横這いを繰り返してきた54 / 「新技術の普及」が経済・人口成長という特異点を出現させる55 / 今後しばらくは人口は減少して、やがて横這い期に58 / 技術が先か価値観が先か59 / 価値観が先だと考えるくらいでちょうどいい62 / すでに起こった未来64 / 大きな変化の流れを捉えることのすゝめ66

第二巻 マクロ経済学

六九

(一) 経済学のモデル

七一

現在のマクロ経済学は今回の成長期のために作られた71 / 経済学はモデルの一種73 / 経済学は外来種のモデル74 / 労働、消費、貯蓄、納税の四つ76

(二) マクロ経済モデルは何を測るのか

七九

結果の測り方のモデル79 / GDPとは見ず知らずの他人への外注金額のこと80 / 経済とは家事を外注して効率を上げること82 / 家事の外注は日本で独自の進化を遂げた84

(三) マクロ経済モデルの解釈

八七

経済規模を消費と投資とに分けて測る87 / 単純モデルの恒等式の解釈89 / 現代語である経済用語と対応させるための言葉の整理91 / はみ出しモデル93 / 単純モデルの解釈94 / 単純モデルを使った経済成長の解釈96 / 修正モデルの説明100 / 修正モデルの解釈103

(四) マクロ経済学に関するその他の事柄

一〇六

マクロ経済モデルは成長期であればいつでもどこでもだいたい適用可能 106 / 自由経済と計画経済(イ)・大衆主義対エリート主義 107 / 自由経済と計画経済(ロ)・自由対平等 108 / 「所得格差問題」 110 / 「貧困問題」 113 / 女性の社会進出は経済成長に寄与するの? 116 / 経済規模は国力も表す 120

### 第三卷 歴史に学ぶ

(一) 考古学の範疇に入る時期の成長期

一二五

ナイフ型石器の普及による成長期と衰退 125 / 土器の普及による定住型社会の出現と衰退 127

(二) 中央集権国家の出現と衰退

一三三

今回の工業化社会の出現と衰退に多くの点で符合する 133 / 歴史から学ぶことの困難な点 135 / ふたつの成長期直後の人口減少期を照らし合わせた解釈の例 136 / 価値観の変化を俯瞰する観方 139

(三) 幕藩体制の成立と成熟

一四二

戦国時代から江戸前半の成長期を解釈する 142 / 奈良時代から戦国時代までの間 145 / 戦国時代から江戸前半の世の中の変化 147 / 天下統一 149 / 不思議ちゃんの徳川家康 151 / 元禄文化 152 / 成長期直後の江戸中期 154

(四) 近代工業化社会の出現・前半

今回の成長期にマクロ経済学のモデルは作られた 158 / 人口と経済規模の推移 163 /  
農業の生産性向上による前半の成長 165 / 踊り場の大正期 168 / 明治から昭和初期の人口  
対策 170

一五八

(五) 近代工業化社会の出現・後半

加工貿易による人口・経済成長の継続 173 / 人口と経済規模が急拡大する高度経済成長  
期 175 / 多子若年社会 177 / 成長期という特異点の出現と世代交替の波がびったりと重な  
った 178 / 「日米貿易摩擦、国際化時代の新たな問題」などと大騒ぎ 179 / 国際化や貿易  
摩擦は実はマクロ経済の問題ではなかった 183

一七三

(六) 近代工業化社会の終焉

成長期が終わって既に四半世紀が過ぎた 185 / 今後は経済成長は望めない 187 / 今後は投  
資の抑制が必要 189 / やがてマクロ経済学自体が消滅 190

一八五

(七) 近代工業化社会の終焉を解釈する

経済成長も人口増加も本心ではだれも望んでいない 192 /  
ITや生命科学などの知的技術は成長期のもではない 193 / 生産性の低下を外注比率  
の向上で見かけ上の穴埋めしている 194 / 「遊戯化」による対応は既に始まっている 196  
／どのように遊びを楽しむかが大事 200 / 成長期直後の今は自己満足に陥りやすい時期  
201 / 「悪い遊び」判定器 203

一九二

(八) 今回の成長期の手仕舞い方

二〇五

今後一世紀の間に直面する問題 205 / 自由貿易はいつまで続くか 206 / 日本の輸出品の競争力 208 / 食料輸入が継続できるか 209 / ヒトの人口調節機能 210

第四卷 変化の読み方

二一五

(一) 価値観の対比

二一七

大小ふたつの枠組み 217 / マクロ経済 218 / 国際化と国風化 221 / 新書と古典 226 / 時間の流れ 230 / 西洋医学と漢方 234 / 結婚観 238 / 男女の違い 244 / 世の中の秩序 248 / 教育の目的 254 / 将来の夢 260 / 「みんな」の範囲 265 / 成長期と横這い期との対比のまとめ 267

(二) 世界観の対比

二七二

成長期は異常な時期 272 / 機械論的自然観の自己矛盾 274 / 機械論的自然観の第二の誤り 278 / 機械論的自然観には目的がない 280 / 横這い期に支配的となる日本人本来の伝統的な価値観は教養に基づく 281 / 古事記の神様は占いで神意を確かめる 283

(三) ものを考えることの対比

二八六

知識 286 / 言葉と国語、国史、文化 290 / 戦後教育 293 / この世の捉え方の本流 295 / 平成の世ではものを考えることが許されていない 296 / 学校はものを考えることができ

## 第五卷 今の世の中

- ないよう子供を矯正するところ 297 / この世の捉え方は目的に依る 299 /  
A1の流行は論理的思考の正体をあぶり出す 303 / 平成の世でものを考える方法…  
311 (イ) 無知の知 305 / 平成の世でものを考える方法…(ロ) 想像力 308 / 思考法の対比

(一) しばらくは価値観混在期が続く

三一五

- 価値観混在期はいつまで続くのか 315 / 横這い期への移行を遅らせている三つの理由 315  
/ 最終的には食糧問題に行き着く 319 / 成長期はいつも価値観混在期 320

(二) 時代遅れの価値観

三二二

- 投資判断の誤り 322 / グローバル化 326

(三) 価値観の分裂

三二九

- 市場調査への回答の例 329 / 職場の遊技場化の原因にもなっている 330 / 女が男の真似を  
する 335 / 価値観分裂症を患った新人類世代のミスター経営者 337 / 価値観の変化に対応  
できない規制業界…(イ) 医療業界 340 /  
価値観の変化に対応できない規制業界…(ロ) 高等教育 344 / 分裂症は「国民分断」の  
第一内容疑者 350 / 営業社員が罹る分裂症 351 / 会社組織全体が価値観分裂症に罹ってしま  
う 355

(四) 種類の違う価値観を接ぎ木してしまつて醜態を晒す

三五八

愚かで醜い自己満足 358 / 職場で自己満足 359 / ネットで自己満足 359 / プロ野球選手に  
仲間まがいのことをさせるファンとアナウンサー 361 /  
「平成の正義」の流行の原因にも 364 / 安全保障上の危険 365

(五) 混乱の象徴・政治とマスコミ

三六七

政治とマスコミは混乱の象徴 367 / 民主政治は結局日本人には全く理解されなかつた 368  
／「権力の監視」 371 / 「知る権利」 373 / 「三権分立」と「国権の最高機関」 374 /  
目的を完全に見失っている 375 / 成長期という異常な時期に敗戦と占領という異常な事  
態が重なつた 378 / マスコミは正義を売る商売 381 / 信じられない与太話 383 / 与太話つ  
いでに 384 / 亜流商品 387 / 天気予報 390 / 意見 392 / 言葉狩り 396

## 最終巻 自分で考えるために

四〇三

(一) この世をどう観るか

四〇五

見れども見えず、聞けども聞こえず、食らえどもその味を知らず 405 /  
人はだれでも独自のものの観方を持っている 408

(二) 今後の横這い期を予想する方法

四一三

成長期のものと横這い期のものとを分別する 413 / 目的を推測する 414 / 近代化が壊したものを戻す方向 418 / お上 422 / 最も参考になるのは江戸時代 426 / 成長期の後、技術が衰退する理由 427 / 暇つぶし 429

(三) 平成の世を生きる女の人のために

平成の世は女が困惑しやすい時代 432 / 要らぬお節介 435 / 食品偽装事件 437 / 外食・中食が安心して食べられる世の中は本当に良い世の中なのか? 439 / 「偽装」のない「とても正しい」世の中になればいい? 442 / 世の中の矛盾や邪悪なものは男に任せておけばいい 442 / だれに何と言われようとも 444 / 分別ある大人 446

## 本書の構成

第一巻「世の中の変化とは？」では、まず、「世の中の変化とは価値観の変化である」として、それがどのようなものなのか説明します。

次に、変化を起こしている要因を、大中小の三つに分ける観方を示します。一年から数年程度の周期の「流行」という小さな波、十数年周期の「世代交替」という中くらいの波、数百年周期の「人口・経済成長期」という特異点の出現」という大きな波、の三つです。

そして、小さな波の「流行」の説明は省いて、中くらいの波と大きな波の概略を説明します。こうして、第二巻以降で「世の中の変化」を考える枠組みを提示します。

第二巻「マクロ経済学」では、大きな波の「人口・経済成長期」という特異点の出現」に関して、経済規模の概念を改めて確認します。

経済規模という言葉は、平成の現在、マクロ経済学の用語として使われています。そのマクロ経済学は、今回の成長期に、今回の成長期のために、作られたものです。そんなマクロ経済学を絶対視してしまつては、今回の成長期だけにしか通用しない思考となつてしまいます。

本書では、マクロ経済学を今回の成長期に特有のものともみなして、より相対化した視点から捉え直します。そうすることで初めて、「成長期」という特異点が数百年に一度出現する」という視野で、ものを考えることが可能になるからです。結果的に、現代の一般的な理解とはいくらも異なる解釈となります。

また、経済規模と人口の増減は、とても強く連動しています。経済成長と人口との関係についても、マクロ経済学の考え方のなかで触れていきます。

第二巻の最後に、ついでと言つては何ですが、マクロ経済学に関する時事問題をいくつか取り上げます。

なお、世の中の変化を考えると、マクロ経済学の基礎的な部分のみを扱います。マクロ経済学の予備知識がほとんどない富川さんでも、十分についていける話し合いになるはずで、むしろ、経済学部卒業の権田さんのほうが、学校で習ったマクロ経済学をこれまで絶対視してきましたので、その固定観念を取り除くのは簡単ではないかもしれません。

第三卷「歴史に学ぶ」では、過去の成長期とその前後を振り返ります。世の中の変化の大きな波に乗って、数百年に一度出現する成長期という特異点を通り過ぎていく様子を解釈していきます。そうすることで、歴史から学ぶ「賢者」になろうという寸法です。

世の中が成長期に入り、ピークを迎え、やがて成長期が終わっていくとき、価値観はどのように世の中の変化を引き起こしていったのか、今回の成長期とその終焉に対比させながら解釈していきます。

第三卷の最後に、今回の成長期が、世の中にどのような影響を遺して終わっていくことが予想されるのか、いくつかの問題を提起します。

その目的はもちろん、現在起きている成長期の終焉を解釈することです。今の世を理解し将来を予測すること、この世をうまく、楽しく、面白く生きていくことです。

第四卷「変化の読み方」では、第三卷までの、世の中の変化の波、マクロ経済学を使った世の中の解釈、過去の歴史上の成長期の解釈、に基づいて、成長期と横這い期の価値観を対比させていきます。そうすることで、今後、成長期という特異点を過ぎて横這い期へと向かっていく世の中の変化を捉えられるようになることが目的です。

内容は、価値観の対比、その基盤となっている世界観の対比、そして、人間にとって根源的な「ものを考える」ことの対比、の三部構成です。

第五卷「今の世の中」では、平成二〇年代終盤の現在の世の中を解釈していきます。

現在は、成長期という特異点が過ぎ去って未だ四半世紀しか経っていない、「成長期終了直後」という時期です。それは、「成長期の価値観を主流としながらも部分的に横這い期の価値観が入り込んできている」という、価値観混在期です。そして、価値観の混在は、いろんなところでいろんな混乱や問題を引き起こしています。まず、この価値観混在期が、なぜ、いつまで続くのか、について話し合います。

次に、混乱や問題の原因を三つに分類して、それぞれどんな混乱や問題を引き起こしているのか見ていきます。原因となつている価値観の混在とは、時代遅れの価値観、価値観の分裂、違う価値観が接ぎ木されてしまう、の三つです。

第五巻の最後に、混乱の象徴として政治とマスコミについて取り上げます。異常な成長期、敗戦と占領、成長期直後の価値観の混在、と段階的に混乱要因が重なり、現在のカオス状態となつていく様を解釈していきます。

世の中の変化を考える話し合いは、前巻までで終わりです。最終巻「自分で考えるために」では、ここまででお話したような、世の中の変化や世の中の解釈を、私はどのようにして行つたのか、についてのお話です。いわばネタばらしです。

その目的は、富川さんや権田さんなど、私よりも若く、これから長く生きる人が、自分で考えることができるようになることです。そのための参考までに、私のやり方の紹介をしようというわけです。

最後に、平成の世を生きる女の人のための、私からのお節介な助言です。成長期直後の価値観混乱の上に敗戦の傷跡まで未だに残っている平成の世の中は、特に女の人にとって困惑してしまう状況にあるからです。女の人がちゃんと自分の幸せを掴むことが、私たち日本人みんなの母国が栄えるための大前提だからです。